令和5年度　自己評価結果公表シート

令和6年4月
社会福祉法人　三愛福祉会
きむら認定こども園

園概要

昭和30年より開園し、平成28年よりきむら認定こども園として今年度9年目なる。
地域とのつながりを大切に、安心と信頼を第一に保護者に寄り添いながらともに歩んでいる。

法人理念

一人ひとりの子どもが
心より愛されていると実感し
安心した日々を過ごし
生きる力、将来への夢と希望が
支えられ育まれる
子育てを通してすべての人々の
自己実現をねがい
ニーズを先駆的に取り組み
ともに歩み
未来を創っていく

私たちの価値観

・常に最高の教育・保育内容を学んでいきます。
・日々最高の教育・保育実践を追求していきます。
・子ども、保護者、職員、地域の笑顔を創ります。
・地域社会の幸せに貢献します。

私たちの目標

1. 持続的成長法人を目指します。
2. 心からのファンを持つような、地域から支持の高い法人を目指します。
3. 職員とその家族が誇れる、職員満足の高い法人を目指します。
4. 自法人らしさを大切にしていると思われる、個性あふれる法人を目指します。
5. 地域かや社会からなくてはならないと思われる法人を目指します。

一人ひとりが大切にすること

①コミュニケーションを通して、開かれた正直な人間関係を構築しよう。
②チームで創り上げる力、お互い様の気持ちを育てよう。
③情熱と継続する意志を持とう。
④成長と学びを追求しよう。
⑤謙虚さを忘れずに。
⑥変化を受け入れて、前向きに原動力としよう。
⑦心をオープンに、創造的に。
⑧笑顔と楽しさ、ちょっとした遊び心を大切にしよう。

基本理念

安心そして信頼　すべては子どもの最善の利益のために

基本方針

・子どもたちが望ましい未来を作り出す生きる力の基礎を培います。
・愛情いっぱいにあたたかく受容し、信頼感や自己肯定感を育んでいきます。
・日光、空気、土と水を大切にし、子どもが育つ場にふさわしい施設設備に努めます。
・一人ひとりの子が、力いっぱい、精いっぱいの生活ができる楽しい園づくりを目指します。
・保護者や地域の人達に好かれ、信頼され、地域の団体や諸機関にも開かれた園づくりを目指します。
・地域の社会の一員として園に関わるすべての人々の自己実現につながる活動を目指します。

保育目標

健康でたくましい子　　友だちと仲良くできる子
自由な表現ができる子　　感性が豊かな子

今年度重点的に取り組む目標

1　質の高い保育の提供「新指針・要領に沿った保育・教育の実践」
○「こども主体」について研究を深め、実践につなげる
○子ども一人ひとりに応対したきめ細やかな保育
○行事の工夫“出来栄えではなく　表現する楽しさを”
○自己評価等の活用をして、保育の質の向上をすすめる。
○発達段階を踏まえた取り組みの重点
　乳児部　ゆるやかな担当制　　幼児部　遊びこめる環境つくり
　地域部　保護者の願いに応える
○コーナー保育の充実・園庭の改修をすすめる。

2　保護者・地域・共育て計画「地域の全ての子育て家庭を支える」
○園に通うすべての保護者へ寄りそう支援を充実する
○園の方針を保護者に十分伝える
○日常の中での活動の様子を伝える
○地域子育て支援センター「なかよしひろば」の充実
○孤立しがちな子育て家庭への支援を深める

3　業務・オペレーション改善計画
○指導計画作成の効率化
○多目的室の有効活用
○休憩時間、ノンコンタクトタイム
○学年フリー職員の配置
○事務の効率化と保護者との関係の綿密化

4　SDGsが実感できる活動の実践
○職員の実践の見える化
○保護者の取り組みの継続と発信

評価項目別の達成及び取組状況

項目	取組状況
基本理念・基本方針 保育目標を認識し、 職員間の共通認識を図る	○職員会議や省察会議などの際に、方針など目指している方向性について振り返る機会をつき1回程度設けた。 ○職員の共通認識を深めるために、職員一人一人に保育所保育指針を配布した。
保育、教育内容	○こども主体を目指して、行事を乳児部は親子での活動をメインに設け、幼児部は経験などを大切にし、子どもたちのアイデアなどを盛り込みながら取り組んだ。 ○乳児部では特定の大人との愛着関係を気づくために担当制を取り入れ、生活に関する関わりをできる限り、職員が関われるようにした。 ○自分で遊びを選択できる環境にするため、棚などを多く設け、子どもの興味に合わせてコーナーを作った。 ○イメージを膨らませることができるように、ままごとなどの素材を抽象的なものに変えた。
保育の質を向上させる 会議・研修の充実	○年間を通して「子どもの人権の保障と主体性を育む保育」をテーマに和洋女子大学の小山准教授を迎え、毎月クラスの環境について様々な視点で振り返り、課題を追及した。また、年度末にクラスでの取り組みを、他職員に伝えるプレゼンテーションを行った ○キャリアアップ研修や、保育研究大会等積極的に参加を行った。 ○毎月リーダー会議や省察会議など設け、意見交換の場を積極的に設けた
保育計画への職員間の 共通理解を図る	○年間計画・月間計画は深化・承認の場を持ち、より複数の視点で見ることにより、毎月の保育を活性化させた。 ○看護師や給食室などとも連携し、日々の保育が充実するような計画を立てられるように、月1回保健会議、給食会議の場を持ち、連携を意識して行った
危機管理	○地震、火災時における非常時避難訓練を毎月想定を変えながら行い、課題を見出せるようにした。 ○防犯体制をさらに強化するため、施錠について職員と意見交換をし、玄関のせじょうのタイミングなどを見直しした。 ○施設、遊具安全点検をチームリーダーに行ってもらい、危機管理に対する視野の強化に努めた。 ○消防署に依頼し実際の救急の方法などロールプレイングを行いながら、職員の救急に関する意識向上に努めた。
保護者とのかかわり	○保護者対応マニュアルについて職員と共通理解の場を持った。 ○写真を多く用いて、保育内容を伝える手段とした。ドキュメンテーションやさくらデイズの発信を週1回程度意識して行った。 ○保護者アンケートや第3者評価を行い、保護者の方の園への理解の現状把握に努めた。 ○保護者会とも本部役員会を通して、意見交換をしたり、園の考えを伝えるなどの機会を設けた。
地域との交流	○警察署、消防署とのイベントに参加するなど交流を深めた。 ○年長児が小学校へ足を運んだりし、進学に向けての期待を高める場を設けた。 ○園外での保育活動も多く取り入れ、散歩の際に挨拶をするなど、コミュニケーションを意識して行った。 ○年長児のお楽しみ会の園内行事では「まち探検」を取り入れ、園周辺にはどんな施設があるのかなど、深める機会となった。

職員一人一人が自己評価をしてみての総合評価

○身だしなみなどの部分では多くの職員が、清潔感を意識していた。

○発達の援助など食事の無理強いはしないなどの子どもの気持ちを尊重することを、よく意識している評価となった。

○保育の内容、方法に関して評価が低い職員が多かった。

○個人目標の中では、主体性の保育に取り組む姿勢を見せる目標が多くあったが、振り返りの中では、どこまで寄り添えばいいのか、細かい場面の際の対応の仕方などに悩む振り返りが多く出ていた。

○リーダー職員からはチームをまとめるということよりも意見を出しやすい環境を作ることに意識を向けている職員がいた。

今後取り組むべき課題

※職員数も多いので積極的な発信が必須である。意見を出しやすい関係性、環境作りを意識していく。

○職種関係なく、園全体で子どもの人権について学ぶ機会を定期的に設けて保育の質のアップを図る。

○地域との小学校に限らず交流を広げていく。

○組織として改めてクレドなど大切にしていることなど共通理解を深める。

○業務改善として、書式の簡略化。重複しているものなどの見直し。

○SDGsにむけての取り組み。大人の意識から子どもたちへ。

○社会からの孤立を防ぐために、保護者同士の交流を意識した取り組み。園と繋がれるよう、保育内容の発信を積極的行う。